個の確立と他との協調　　学校法人 郡山開成学園報　　尊敬・責任・自由

開成の杜

第87号 ●2011年12月20日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園
●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024（932）4848（代） http://www.koriyama-kgc.ac.jp ●発行人／学園長 関口 修

チャイルドシアター（多目的室）　　（撮影　山口郁生）

『特別な歳の瀬に』

理事長・学園長
関口　修

一年の終わり、師走とは僧侶の方々が忙しいので師走となったとの解釈がありますが、その言い伝えが真実か否かは定かではありません。けれども、教師が忙しいとの答えよりも適切ではなかろうかと思います。因みに師走の正確な意味を大辞林で調べて見ると、師走坊主とか師走浪人という文言がありました。

師走坊主とは年末は忙しさにまぎれて仏事などは忘れられてしまうことから、落ちぶれたみすぼらしい坊主。無用の存在のたとえ。と記してありました。聞き知っている意味と調べてみた結果とは正反対の答えでした。訳知り顔の報道が親切に教えてくれた意図を信じたいが、自分で調べてみることの大切さを改めて教えられたのでした。復習（予習）する意義は誰しもが知っているのですが、当たり前のことや何気ない言葉の意味を調べてみると色々な事が見えてくるのです。

今年の初めには、思い返すと、うさぎ年だから、元気よく飛び跳ねようとの想いで御正月を祝い、急な大雪にもめげずに三月を迎え、三月三日、桃の節句に附属高校の卒業式を終え、大学と短期大学部の卒業式の準備に心が向いていました。そして忌まわしい三月十一日を迎えてしまったのでした。地震と共に大津波が一瞬にして純真で穏やかな人々を飲み込み、東京電力の原子力発電所を破壊してしまいました。以来、諸々の事が一挙に押し寄せた平成二十三年は残り僅かで新しい歳を迎えようとしています。これまでの様に晴れやかな気持ちで新年を迎えようとの意識が芽生えないのは私一人ではなさそうです。多くの人々が自然災害で失った大切な肉親や友人を思い、三月十一日以来の日々が恨めしい気持ちで溢れているのではないでしょうか。本学は大切な学びの友を御二人失ってしまいました。御二人の御冥福を祈りたいと存じます。学園は学生、生徒、園児、教職員全員の協力で復旧しましたが、原子力災害には皆夫々に心の痛みを抱えての日々であり、放射線の除染はこれからも続くでありましょう。

安全と言う言葉には永遠に安全であるとの保証はないことを知らなければなりません。だからこそ、常に思いもよらない事態を想定した安全点検を必要とするのが人間の生活ではないでしょうか。

このような時こそ、人間の真価が問われ信頼の絆を育まなければならないのでしょう。政府や東京電力の責任を追及するよりも、自らの行動や言葉の重さに責任が持てるようになりたいものです。

（H23・12・12記）

エコランキング 私立大学の部 全国一位

全国の各大学で取り組む地球温暖化対策を評価する、第三回エコ大学ランキングが十一月二十六日発表され、本学が私立大学部門で初の一位に輝いた。

国公立、私立大学の両部門の総合、エネルギーCO_2、自然エネルギー導入率の各部門で三位に入賞した。

全国青年環境連盟（エコ・リーグ）などで構成されているキャンパスクライメートチャレンジ実行委員会などが主催。アンケートを全国の七百四十四大学に送付し、回答があった百七十六校の環境対策を点数化したもの。

本学は昨年、一昨年ともに、私立大学部門で第二位に入賞。今年度は校舎屋上の太陽光パネル増設や各建物の電気使用量が一目で分かるエネルギー管理システムの導入などに加え、学内に古紙や空きビン、空き缶などの回収ボックスを設置するなど全学挙げて取り組んでる省エネ・温暖化対策が高く評価されたもの。

学園環境委員会の緑川管財部長は「一位に選ばれ大変嬉しい、今後とも学生と共に環境活動を続けたい」と喜びを語った。

表彰式は十二月十七日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2011」の席上行われ、本学から山田幸二副学長が出席した。

増設された太陽光パネル

平成二十四年度 郡山女子大学附属高校学校 入試内容（アドミッション・ポリシー）説明会開催

初の試みの入試内容説明会

平成二十四年度入試内容（アドミッション・ポリシー）説明会が十一月五日に開催された。今年度から初めての試みである。郡山市内はもとより県内各中学校から、中学三年生とその保護者あわせて百十四名が参加した。

開会式は建学記念講堂小ホールで行われ、最初に映像による本校紹介をした後、関口修校長が「建学の精神について」述べられた。続いて、学校紹介を佐々木副校長が、平成二十四年度の入学者選考要項と授業料等について八幡副校長が説明した。

全体会の後、高校の施設・部活動を見学しながら、書道部員の作品と華道部員の生け花が展示された高校書道室に移動し、茶道部のお点前を体験し、休憩した。参加者からは大好評であった。その後、高校大会議室に設けられた「個別相談コーナー」を訪れ、入学者選考・進路・授業料・各学科等に関する様々な質問で会場は熱気に包まれた。

説明を聞いた中学生は、受験にむけての決意も新たにした様子で、保護者と共に高校をあとにした。

平成二十三年度第一回教養講座 「東京スカイツリーの建設」

講師 (株)大林組 設計本部 副課長 堀池 隆弥 氏

本年度第一回教養講座は九月二十六日、建学記念講堂で開催された。講師は㈱大林組設計本部の堀池隆弥副課長。「東京スカイツリーの建設」と題して講演した。

以下要旨。

都心部に建設された超高層ビルの増加に伴い、東京タワーからの送信に電波障害を生じた。東京スカイツリー建設の目的はそれを低減することであり、〇七年に着工され十二年の五月開業予定。

建設費は四百億円で来場者数は年間五百五十二万人と予想されており、自立式鉄塔としては世界第一である。

高さ六百三十四メートルは東京近辺の旧国名の武蔵国（むさしのくに）の語呂合わせも考慮したと言われている。完成すると日本一の建造物、世界一の電波塔として話題を集め、各種マスメディアで大きく取り上げられている。

学生からは、高所作業での事故対策は？取り壊す方法、電波の割り振りなどについての質問が相次ぎ、東京スカイツリーへの関心の高さ示した。

講演する（株）大林組の堀池氏

平成二十三年度第二回教養講座 「生命とは何か？」

講師 青山学院大学総合文化政策学部 福岡 伸一 教授

平成二十三年度第二回教養講座が十一月二日に開催された。

講師は、青山学院大学総合文化政策学部教授の福岡伸一氏。

千六百年代にオランダのレーウェンフックが開発した顕微鏡でミクロの世界を観察して以来の「生命」についての研究の歴史を前提に、遺伝子操作したマウスでの実験結果を紹介した。

これまでに唱えられてきた、生物の仕組みを機械のようなメカニズムに当てはめる「機械論的生命観」に疑問を呈した。

講演する福岡伸一教授

大地震対応マニュアル 学生・生徒・教職員に配付

このたびの東日本大震災に伴い、いつでも、どこでも、いざという時にすぐに役立つ携帯用の「大地震対応マニュアル」を防災委員会が中心となり作成した。

大きさは財布や、定期入れ、カバンなどに入れて常に持ち歩き可能なポケットサイズ（名刺版）で、石から抽出した無機鉱物粉末から作られたストーン紙で耐久性や耐水性に優れている。

地震発生直後から学内にいる時や通学中の場合の注意事項、家族や大学への連絡方法、日頃の準備などが項目毎にコンパクトに作成されている。防災委員会では住所、氏名、年齢などの必要事項を記入し、災害時に役立ててほしいと話している。

放射線汚染と環境・食品への対応 市民フォーラム開催される

郡山女子大学の第八回市民フォーラムは、今回日本家政学会、同東北・北海道支部との共催で十月二十九日（土）に本学芸術館大教室で午後一時より四時まで行われた。

東京電力第一原子力発電所の放射性物質の流失による放射線汚染は「外部被曝」「内部被曝」の両面から福島県民に多大の影響を与えていることから、本フォーラムでは放射線汚染の現状と対処法について、日本原子力開発機構の石田順一郎福島環境支援事務所長、福島大学共生理工システム学類の金澤等教授、本学家政学部諸岡信久教授がそれぞれ講演した。

石田所長は「放射線」と「放射能」の違い、放射線の人体に及ぼす影響、食品の暫定基準値の意味について並びに除染に当たっての留意点について同機構の考えを示した。

金澤教授は福島大学での除染の試みについて話された。諸岡教授は本学での除染の取組みとその効果について話された。また、河川の放射線汚染の実態と台風の影響などを示した。

その後、本学広井勝教授の司会で総合討論を行った。市民から多くの質問がなされたが、その中には、県全体の除染は本当に可能なのかといった深刻なものや家庭菜園は可能なのかといった身近な内容もあり、今回のフォーラムに対する市民の関心の高さが感じられた。

市民から多くの質問

これからの入試日程

一般生Ⅰ期は年明けの一月十一日に願書受付を開始して一月二十五日に締め切る。選抜日は大学が二月一日、短大は二月二日。合否発送日は共に二月七日。

一般生Ⅱ期の受付は二月三日に開始して二月十七日に締め切る。選抜日は大学が二月二十五日、短大が二月二十六日。合否発送日は共に三月二日となっている。

並行し大学三年編入、短期大学部文化学専攻の選抜も行われる。編入試験は人間生活学科と食物栄養学科で各々十名。専攻科は二十名を募集している。

AOⅢ期の受付は、二月十七日に開始して、三月二日に締め切る。面接日は、大学・短大とも三月十日。合否発送日は、三月十四日となっている。

入試に対するお問合せは、教務部か入学事務部まで。

二級建築士合格率30％
女子力を社会に発信
人間生活学科 建築デザインコース

家政学部人間生活学科建築デザインコースが、二級建築士受験資格、一級建築士受験資格（実務経験二年）が取得できるコースとして、女子大及び家政学部においては関東以北ではじめて開設されてから五年、今春二期生が社会に羽ばたいた。就職先は、三十倍以上の難関を突破した「福島県庁大卒枠・建築」をはじめ、東京や県内の設計事務所、ハウスメーカー、ゼネコン、インテリア、エクステリア、設備会社等、建築の多様性を示すかのように、個々の希望と特性に応じ多彩である。卒業生の二級建築士の合格率は、全国平均を上回る三〇％（学科試験合格率四〇％）、在学中に取得可能な商業施設士は二年間連続合格率一〇〇％である。

福島県は他県と比べ、女性建築士の数が少ない。それだけに、女性の感性が求められ、活躍の場が開かれている。学生は、その使命を感じてか、震災後の復興活動等、女子力を社会に発信することに積極的である。避難所となったビッグパレットでのパーティーション設営、郡山市のサマー探検隊等のボランティア活動にも取り組んでいる。また、一泊建築物見学会や建設現場見学会、国内の有名建築家を招いての特別講演も行っている。

十一月五日と六日の両日開催された「こおりやまＵＤものづくりフェア」では、三年生が中心となり、市民に向けて「たまごの殻の漆喰」と「木製品のデザイン」の開発に関する展示と研究発表を行った。研究発表では最後に、「子どもたちの声・再び」と故郷・福島の復興を願う小学校の模型を示した。

「ハーモニーステーション郡山」で行われた「こおりやまUDものづくりフェア」での研究発表風景（11月5日、6日）

附属高校音楽部
クリスマス交流会で帯広へ

マルセイバターサンドなどで全国に知られている北海道帯広市の「六花亭製菓」の招待で本校音楽部が十二月十六日、帯広市で「楽都・郡山」の歌声を披露した。同社の共済会五十周年を記念したクリスマスプレゼントとして約二十人が招待された。

「クリスマス交流会」では、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故からの復興を願う「楽都・郡山」の心を込め、クリスマスにちなんだ曲を歌った。また、現地のアドニス少年少女合唱団と共に、大震災からの復興を願い「見上げてごらん夜の星を」を歌った。音楽部の板屋部長（二年）は「感謝の気持ちを忘れず、役目を果たしてきました」と話した。

高校・美術科
情感に溢れた卒業作品

第三十七回卒業作品展が十二月八日から五日間、建学記念講堂ギャラリーで開催された。

卒業予定者十三名が日本画、油画、ビジュアルデザイン、クラフトデザインなどの各部門で七十点の作品を展示発表した。三年間の学習成果のまとめとして取り組み様々な表現の中に女子高生らしさが十分に発揮された、感性豊かな作品が展示された。

個性豊かな作品の数々

高校・食物科
卒業作品発表会 賑わう

附属高校食物科の平成二十三年度卒業予定者三十九名による卒業作品発表会が十二月七日、八日の二日間調理室と試食室を会場に行われた。

調理師免許取得をめざしての学習成果の発表として、日本料理を始め、西洋、中国、エスニック料理などの料理が会場一杯に展示された。また、家庭の自慢料理「伝承料理」や一年間通して研究してきた課題研究が紹介された。

会場を訪れた保護者や市民、飲食関係者、本学園の教職員や学生は素晴らしい出来ばえに驚嘆し、カメラやビデオで撮影していた。

食物科調理室で開催された卒業作品発表会

堀内美智子さんに
藍綬褒章

短大・生活芸術科昭和三十一年卒業の堀内美智子（双葉町在住）さんが秋の褒章で藍綬褒章を受賞した。多年に渡る更生保護司活動が認められたもの。

平成二十四年度新役員決まる

大学学友会

会長 吉川梨奈（食物・二年）
副会長 松川千尋（食物・二年）
副会長 皆川好美（食物・一年）
総務部長 大堀裕子（人生・二年）
書記 後藤美紅（食物・二年）
書記 滝口美奈子（食物・一年）
会計 鈴木千夏（食物・一年）
会計 金子 園（食物・二年）
庶務 杉沼智美（食物・二年）
体育部長 池田理咲子（食物・一年）
文化部長 藤田奈津実（食物・二年）
厚生部長 鈴木 咲（食物・二年）

短期大学部学友会

会長 早坂美香（食物・一年）
副会長 高橋仁美（食物・一年）
副会長 下田花梨（幼教・一年）
総務部長 根立梨恵（文化・一年）
書記 佐々木望美（食物・一年）
書記 長尾真衣（幼教・一年）
会計 本田理沙（生芸・一年）
会計 小針かなえ（生芸・一年）
庶務 平山奈瑠美（幼教・一年）
体育部長 杉内いちご（幼教・一年）
文化部長 古山愛弓（幼教・一年）
厚生部長 鈴木佑麻（幼教・一年）

附属高校生徒会

会長 北池智美（二年五組）
副会長 佐藤琴乃（二年五組）
副会長 穂積春乃（食物科一年）
書記 笹山彩花（一年一組）
書記 吉田優美（食物科一年）
会計 山田香央莉（二年一組）
会計 塩澤佳奈（一年一組）
会計 森本智香（一年一組）

学びの旅 附属高校修学旅行

琉球村にて

平和祈念公園　平和の礎

●原色の島へ

今年度の修学旅行は、第二学年で沖縄へ行って参りました。

初日に見学した首里城では、沖縄が琉球王国だった頃の歴史を感じました。

二日目は戦争を軸とした日でした。実際に沖縄での地上戦の中にいた方のお話を聞くことができました。凄惨な記憶を聞き、平和の大切さを学ぶことができたと思います。

三日目はクラス別研修を行い、それぞれ違う視点で沖縄を学びました。

この修学旅行では、テレビに映るカラフルな沖縄だけでなく、礎となっている過去の歴史も知りました。また、現在の沖縄で大きな問題となっている米軍基地のことも学びました。現地に行くことでしかわからない様々なことを味わい、充実した修学旅行となりました。（普通科　飯村ゆかり）

●沖縄の食文化を知る

私たち食物科は、昨年と同様に沖縄独特の食文化を学ぶため、海ぶどうの養殖場や黒糖工場、沖縄ハムの工場を見学しました。そこで海ぶどうの養殖の難しさや、黒糖がサトウキビからどのように作られるか、ハムやソーセージを作る際の衛生面での注意など、非常に勉強になるお話をたくさん聞かせていただきました。

三日目の夕食では、国際通りにある「四つ竹」にて沖縄の宮廷料理と沖縄舞踊を学ぶという貴重な体験をしました。

沖縄の食文化を知るとともに、旅行を通じてクラスの絆も深まり、思い出に残る四日間となりました。

（食物科　小竹森まりん）

NEWS

学園ニュース 1

大学・卒業研究発表会が始まる

平成二十三年度郡山女子大学家政学部人間生活学科福祉コースが十月二十五日、食物栄養学科が十一月二十八日に卒業予定者の研究発表が行われ、これまで取り組んできた研究内容を報告した。各自のテーマは次の通り（敬称略）。

●家政学部人間生活学科
福祉コース

1 特別支援教育の現状と課題　根本麻未
2 知的障がい者の就労支援の現状—地域での就労を目指したジョブコーチ制度—　大河原知美
3 自閉症に対する理解の現状と課題—障がい者理解から生まれる住みやすい街づくり—　大坂　光
4 日本における子育ての現状と課題—父親の育児休暇取得率をもとに—　菊地成美

研究発表を行う人間生活学科福祉コースの学生

5 生活保護を受けている母子家庭について　遠藤三奈緑
6 介護保険制度の現状と今後の課題—介護保険サービスを利用する在宅の高齢者が抱える問題点とは—　神山結香里
7 東日本大震災による高齢者へのダメージと支援の実際—4件の事例研究より—　酒井美波
8 高齢者を支える地域社会—高齢化率50％を超える3町村の取り組み—　本多直子
9 被災地における要介護者受け入れ対応への課題—郡山市の特別養護老人ホームの事例を通して—　元木真実
10 仕事と服装—介護職のユニホームについて—　渡部咲貴
11 家庭科教育と「生きる力」の関係の一考察　遠藤　恵

●家政学部食物栄養学科

1 食品中の乳酸菌分離に関する研究　桑名由希子
2 ハタハタ飯ズシ中の微生物に関する研究　畠山恵莉　荒巻真穂
3 手作り弁当における微生物に関する研究　成井久恵
4 農産物の放射線測定　板橋祥子　半澤紗也子
5 猪苗代湖水系の放射線測定　川尻有香
6 女子大学生の食生活と貧血の関連について　橋本知佳　伊藤芳恵
7 女子大学生の居住環境と食生活について　佐藤あゆみ　佐藤琴栄
8 幼児期の食生活と偏食の関連について　鈴木裕可里　大山李紗　菊地香那
9 コンビニスウィーツのマーケテング—市場環境分析および消費者分析を中心として—　佐々木麻里
10 ツチグリの嗜好性について　草野仁美
11 エノキタケの脂肪酸組成および遊離アミノ酸含量について　長谷川　遥　大滝愛美
12 増粘剤の併用添加による米粉パンの品質改善　渋谷南美　鈴木亜美　髙橋真理恵
13 グルテンフリー米粉麺の簡易製造に関する研究　鈴木初美　鈴木留珠　本多晴香

研究発表を行う食物栄養学科の学生

14 福島県相馬市の年中行事食とその文化的価値　齋藤孝美
15 幼児期の咀嚼力と食生活の実態調査　秋山恵理　佐藤　圭
16 植物ステロールエステルの油脂代替物としての機能性　大堀恵美　関根　望　髙橋明日香　見浦京子
17 ビルベリーのアントシアニンがⅡ型糖尿病モデルマウスに与える影響　高橋ひろみ　本多由貴
18 精神科デイケア利用者の食生活習慣について　二瓶友紀恵　本村　裕
19 精神科デイケア利用者における間食量の把握—栄養教室の実施—　安達麻美子　石川有里　國井ちえみ
20 女子大生の肥満と食習慣及び健康意識の関連について　目黒早也香　森山麻衣子　谷津千晶
21 市販の運動器具を用いた健康影響評価—レッグマジックの場合—　星野有紀
22 食料自給率の現状と今後—栄養学的観点から—　田﨑暁子
23 高齢者福祉における配食サービスの現状　甫坂美有紀
24 家庭科教育の現代的意義　穂積成美
25 若年女性の鉄摂取状況について　嶋津諒子
26 若年女性の鉄摂取不足における要因分析　佐川文乃
27 大震災から考える備蓄食—避難所体験をふまえて—　半谷恵巳

大垣女子短大から激励の手紙

去る十一月二十五日、岐阜県の大垣女子短期大学デザイン美術科から富有柿五十個が本学生活芸術科に届いた。

これは十月に、埼玉県で開催された全国私立美術系短期大学学長懇談会において生活芸術科の久家主任が震災後の本学や福島県の状況を説明したところ、大垣女子短期大学デザイン美術科長の松本英三先生から励ましの手紙と富有柿が届けられたもの。

手紙は「互いに遠く離れていても同じ美術を学ぶ学生同士、机を並べて学んでいると思っています」と結ばれていた。これに感激した生活芸術科の学生と教員がお礼のメッセージを送ろうと、一、二年生合同の集合写真を撮影、寄せ書の礼状を送り届けた。

短大・生活芸術科四人が入賞 第十二回デザイングランプリTOHOKU2011

この大会はプロのデザイナーとプロを目指している専門学校・高専・大学生を対象に、グラフィックデザインの作品コンペを通して、互いのデザインの向上を図ることを目的としている。東北地区印刷協議会主催で今年で十二回目。

大会には「がんばろう！東北」をテーマに一般部門・学生部門に三百六十五点の応募があり、短大・生活芸術科の四人が入賞した。

▽奨励賞　武藤　紀子（二年）
　　　　　大槻　未来（二年）
▽期待賞　古川　夏希（一年）
　　　　　和田佳奈美（一年）

大槻未来さんの作品

武藤紀子さんの作品

岩手芸術祭で黒沼講師が芸術祭賞受賞

第六十四回岩手芸術祭美術展彫刻部門で短大・生活芸術科の黒沼令講師の作品「覗き込む人」が芸術祭賞を受賞した。

作品の大きさは幅二十㎝・奥行き二十五㎝・高さ六十五㎝で「技術的にも優れ、社会への自身の関わりが緊張感を伴って映し出されている。自らが抱えるテーマが見事に表現されて、独自の美学を追求する姿勢も伝わる」と審査員から評価された。

第六十四回全国高校バレーボール選手権大会（二〇一二年一月五日・東京体育館）
四年連続十五度目のキップ 一回戦で大阪国際滝井高校と対戦

県代表決定戦は十一月二十六日（土）福島市国体記念体育館で行われた。今大会第一シードの附属高校バレーボール部はインターハイ県予選決勝と同じ相馬東と対戦、25—12、25—14、25—23の3—0で完勝、四年連続十五回目の優勝、来年一月五日からの全国大会（東京体育館）一回戦で大阪府代表の大阪国際滝井高校との対戦が決まった。保原高校、橘高校をストレートで下し、決勝戦では一、二年生主力の若いチームが「三年生を全国大会へ連れて行く」を合言葉に抜群のチームワークで目標を叶えた。

後藤選手の大怪我、三年生の引退などのチームの危機を高橋、目黒両一年生の活躍などで乗り超えて出場を決めた田島主将は「先輩たちの実績（09インターハイ十六強）を超える八強以上を目指す」と力強く語った。大会への登録選手は次の十八人。

メンバー表

名前	学年
田嶋和香菜	2年
目黒　優佳	1年
髙橋　愛未	1年
岡部沙衣子	2年
羽染実知佳	1年
添田あすか	2年
金村　操蘭	1年
池田采弥佳	2年
須藤菜緒子	1年
武内　似季	2年
吉田　真実	1年
松川　美咲	3年
諸越　可奈	3年
宗像　美樹	3年
古川　愛美	1年
慶徳　優菜	1年
宗形　葵	1年
藤田はるか	1年

第3セット、優勝を決めた高橋愛未選手のスパイク（提供／福島民報社）

おめでとう！4年連続15度目の優勝（提供／福島民報社）

ぼくとわたしのさくひんてん

十一月二十二日から五日間、附属幼稚園の「ぼくとわたしのさくひんてん」が建学記念講堂ギャラリーで開かれた。学習成果の発表として十八回目を迎えた。

三歳未満三名、年少組三十一名、年中組四十名、年長組三十九名、計百十四名の絵画や紙粘土、木工作品などが展示された。

園児たちが絵の具を使って好きなものをのびのびと表現した。紙粘土では、動物やアニメキャラクターをかわいらしく作り上げ、来場者の目を楽しませた。

立派にできました

幼稚園運動会 たのしかったねぇ

今年は色々な意味で「特別な運動会」！　今回は学園第一体育館で運動会を行いました。

青空の下での運動会とはいかず、体育館での練習自体も少なく、私たち職員は若干の不安を覚えながら当日を迎えましたが、園児たちは私たちの期待を上回る演技、競技を行うことができました。

かけっこ、ダンス、玉入れ……年長組さんは放送係や、小さな子にプレゼントを渡したりといった係の仕事まで一生懸命取り込むことができました。

「ねぇねぇ！ぼく早かったでしょう？」「ダンス、たのしかった〜！」演技が終わって戻ってからの園児席、そして運動会から帰った後のお家で、そうした声がたくさん聞かれたようです。

今の時間を精一杯生きる子どもたちの笑顔に会場全体があたたかい気持ちなった今年の「うんどうかい」でした。

うまく入ったかな？

ダンスは愉しいです！

乳製品オリジナル料理コンクール 安瀬さんに最優秀賞と県知事賞

県牛乳普及協会（但野忠義会長）主催の第三十二回牛乳・乳製品利用料理コンクールが十一月一日、福島市で開かれ、食物科三年安瀬英未さんの「福たくさんピロシキ」が最優秀賞に選ばれた。

コンクールには県内の高校生や一般から二百十八点の応募があり、書類審査を経て選ばれた十人が調理実技審査に臨んだ。

その他の入賞者は次の通り。

▽優良賞
金子　園（大学食物栄養学科二年）
岡部春香（高校食物科一年）
室井里奈（高校食物科一年）

最優秀賞に選ばれた安瀬英未さん

短大・音楽科卒業生の集い

東日本大震災により卒業式が中止された、短大・音楽科の平成二十二年度卒業生の集いが十月二十九日、ホテルプリシードで行われた。

今年の卒業生二十一名中十四名が出席、涙ぐみながら恩師や仲間との再会を喜んでいた。美味しい食事や楽しい語らいのあと、全員で校歌を斉唱、今後の活躍を誓った。

仲間との再会

幼児教育学科「卒業後の集い」

今年三月十一日の東日本大震災は未曽有の被害をもたらし、卒業式も挙行することができなかった。

83年館が甚大な被害を受け、この八月末改築工事が終了したことから、幼児養育学科では十月二日（日）平成二十二年度卒業生の集いを開催した。参加人数は百十八名中四十七名であり、教員十六名を含め計六十三名が集合した。東京都、千葉県、栃木県、南相馬市と遠方からの参加者もあった。

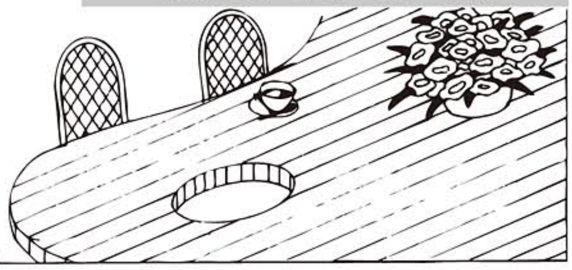
八二一教室に集合し、そこで主任先生の歓迎の挨拶、先生方の紹介が行われた。その後すぐに記念講堂正門玄関で記念撮影、カフェテリアでの懇親会に移った。主任先生の音頭で卒業生の乾杯の声が高らかに響いた。懇談の間に各クラスの代表者が近況報告をした。先生方と写真撮影したり、ケーキを食べながら、友だち同士、学生時代にタイムスリップしたかのようにはしゃいでいた。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、全員で校歌を合唱し散会した。名残惜しい姿が秋のキャンパスにいつまでも散見された。

平成22年度幼児教育学科卒業生　卒業後の集い

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



イラスト／佐藤 悦美

伝える

岡部 聡子

今から三万五千年前の地球に旧人ネアンデルタール人と、人類の祖先である新人クロマニヨン人が共存していた時代があったという。自然の草花からその特性を利用して生活に役立てる、そんな時代のフィクションに心惹かれる。かすみ草をシャンプーにしたり、体調に合わせてハーブティーを調合したり、ジギタリスの強心作用を利用したりと多くの生活の知恵が伝承されていく。草を摘んで乾燥させ、種類ごとに区別分けして保存する。その一連の作業は時間と手間がかかるものだ。

太平洋の赤道直下にある島、マーシャル諸島。小さな島々からなる群島である。私はその地で二年間生活していた。ある時、離島の小学校入学式を見学した。島の女たちは子どもも総出で朝から調理に大忙し。パンの実とココナッツ、調理用のバナナ、魚がメインである。パンの実をたき火で焼き、周りの炭をガラス片でつるんと剥く。若いココナッツは飲料に用い、古いココナッツは割って中の油脂部分を特製の削り器を用いてパウダー状にする。その削ったものを利用して魚と煮たり、調理用バナナを団子状にして周りにまぶす。ココナッツボールの出来上がりだ。子どもたちはその中で伝統の食を受け継ぎ、学んでいく。

現代は利便性を追求して便利で簡単なものが氾濫している。ここでしばし、何を次世代に伝えていきたいのか心を馳せる。

（郡山女子大学講師）

岡部先生と学生たち

「コミュニケーションを大切に」

神山 結香里

筆者

私は十一月七日から二週間、社会福祉士の実習をさせていただきました。今回が四年間で最後の実習ということもあり、四月から介護の現場で働く私にとって、とても実りの多いものとなりました。

相談援助実習では、利用者の方とコミュニケーションを図っていく中で、一人一人の性格や個性等の理解に努め、利用者の方の目線に立って関わっていくことの大切さを学びました。また、言葉のコミュニケーションと共に、表情や行動等の非言語コミュニケーションも、利用者の方を理解していく中で重要なことだと学びました。

表情や行動からも、思いや必要としていることに気づき、その人らしさを大切に援助していくことは、信頼関係を築いていく中で最も大切なことだと実感しました。利用者の方の目線に立って物事を考え、様々な視点から向き合っていきたいです。

今までの実習以上に、現場が現実のように見え、課題も様々な面から見えてきました。さらにそれが、仕事の現場だけでなく、これから社会人として生活していく中でとても大切なことだと学びました。「コミュニケーションを大切に」して、これから頑張っていきます。

（人間生活学科 福祉コース 四年）

「我が高校生活に悔いなし」

松川 美咲

筆者

私の高校生活は、バレーボールとともにありました。バレーボールと素晴らしい仲間たちが私を心身ともに成長させてくれたと、今、感謝の気持ちでいっぱいです。

一年生のころ、入部したての私は緊張からのびのびとプレーすることができず、辛い思いをしていました。そんな私に三年生の先輩方がいつも優しく声をかけ励ましてくれました。そのお陰でレギュラーに選ばれ、大会でも安心してプレーできるようになりました。私はこのとき、「チームを支えられるような先輩になる」という目標を立てました。

二年生になると、後輩を引っ張り、先輩を支える立場となりました。中堅としてバランスをとることはかなり難しく、また、三年生が引退したときは、今度は自分たちが部を引っ張っていくという重責に身が引き締まる思いでした。

三年生になると毎日の練習も一つひとつの試合もこれが最後という思いで精一杯取り組みました。その成果があらわれ、春の高校バレーの出場権も得ることができ、今は喜びでいっぱいです。

私の母はいつも私に「悔いの残らないように行動しなさい」と言って私を見守ってくれました。私が充実した高校生活を送ることができたのは私を見守ってくれた家族や部の仲間たち、クラスの仲間、先生方がいたからだと改めて感謝の気持ちがこみあげてきます。

これから、私にとって高校生活最後の大会が始まります。オレンジコートが我がチームを待っています。今、私は自信を持って言えます。「我が青春に悔いなし」「我が高校生活に悔いなし」と。

（附属高等学校三年）

生活診断室

シリーズ 49

一匹狼たちの勇気

郡山女子大学
講師 笹田 琴美

「就職が決まりましたぁ～!!」と相談室に飛び込んできた学生。「やったぁ！」とふたりで叫んで乱舞した。午後の日差しに照らされて、高揚した顔がピカピカ光って見えた。

この学生は、ずっと群れから外れた一匹オオカミだったのだ。辛いときもあっただろう。でも、勉強して資格を取って就職する目標を諦めたことはなかったし、教室の外には親しい友達もちゃんといた。

一匹オオカミは、一匹だけではない。実は結構たくさんいる。私から見て、彼女たちにコレといった問題点はないし、孤立の理由も見当たらない。ただ、ほんの一歩、大人になるのが早かった人たちだ。個性と根性のある、おもしろい学生が多い。

もう大学生なのだから、ひとりで行動するのは当たり前だ。いつまでもべったりと群れていないで、早くバラバラになってしまえ、といつも私は思っていた。

ところが、中学高校時代のタイトな「仲よしグループ」社会は、群れから外れた瞬間に完全に孤立する社会であり、強烈な疎外感とスティグマと恐怖を植え付ける社会だった（ようだ）。ひな鳥たちは群れにしがみつき、必死で「周りに合わせる」ことを覚えた（らしい）。この習性が、大学生になってもなお残っていて、群れの自然な解体と個々の自立を阻害しているように思えてならない。

大学・短大は社会人になる前の最後の貴重な時間である。勇気をもって羽ばたいて、大人になってほしい。その方がきっと、良い友達に出会えると思う。

私の本棚

竹内 久美子 著

『女は男の指を見る』

新潮社

郡山女子大学
講師 垣花 真一郎

「冗談みたいな話もたくさんあるけれど…」昔、恩師が「進化心理学」のことを指して言った言葉だ。今、思い返すと、当時の心理学者の複雑な心境がよく出ている。

心理学に対する進化論の影響が大きくなってひさしい。十数年前、私が大学院にいた頃には、こうした見方はすでに「進化心理学」という名を得て、一つの学派を形成していた。当時は、生まれたばかりの乳児が人の顔を好んで見ることや、数の認識をもつことなど、数々の驚くべき発見がなされた時代でもある。そうした人間の「本能」が注目を浴びる中で、進化論的見方が耳目を集めるのは、自然な流れであったともいえる。

けれど、説の中には、冗談みたいなものも多くある。「愛は数年で醒めるようにプログラムされている」「浮気は本能なり」等々。この種の話は、証明する手立てもないが、否定するのも難しい。「こじつけ」と揶揄する者もある。

この手の話をさせたら、竹内久美子の右に出る者はいない。動物行動学者の潔さで、尊いものから卑しいものまで、あらゆる人の行為を「遺伝子を残す戦略なり」と喝破する。「おいおい」とつっこみながらも、ついついつられてページは進む。自らの行動を振り返り、納得してしまうのは効用かそれとも害か。

表題の「女は男の指を見る」について。薬指が人差し指より長いほど、男は男性ホルモンが多く、よくもてるのだそうだ。それで女は男の指を見てしまうのだという。ついつい視線は指先へ。うーん、微妙。

NEWS 学園ニュース②

各種大会の入賞者

全国高校生読書体験記コンクール 附属高校関根彩夏さんが優秀賞

一ツ橋文芸教育振興会が主催する第三十一回全国高校生読書体験記コンクール県選考会がこのほど開かれ、関根彩夏さん（三年）の作品が優秀賞に選ばれた。

関根さんはこの夏、星野富弘著『かぎりなくやさしい花々』を読み、障害の度合いは異なるが、自分と同じような事情を抱えている星野さんが生きがいを見つけて精一杯前向きに生きていることを知った。

「障害をもったからといって決して不幸ではない。不幸だと思ってしまったらそのときから不幸になる。やろうと思えばなんでもできる。新しい自分を見つけ私は、これから強くたくましく、そして人の痛みを知った分、優しく生きていこう」と綴られている。

西会津国際芸術村公募展

◆福島民友新聞社賞

大槻未来（短大・生活芸術学科二年）

剣道新人大会　団体の部 三位入賞で東北大会へ

県高校新人大会剣道競技は十一月五日、六日の両日、会津総合体育館で行われた。附属高校は団体三位に入賞、来年二月十二日に宮城県田尻市で開かれる東北大会に出場する。

第四十九回県高校新人体育大会 体操・新体操競技

▽個人総合

二位　芳賀妃奈野

▽クラブ

二位　芳賀妃奈野

▽リボン

二位　芳賀妃奈野

東北高校選抜大会 体操・新体操競技

▽クラブ

十六位　芳賀妃奈野

▽リボン

十七位　芳賀妃奈野

県高文連自然科学部門

▽科学部　奨励賞

校内合唱コンクール 学校長賞は普通科一年一組

今年で第三十七回を迎えた恒例の校内合唱コンクールは九月三十日、建学記念講堂大ホールで開かれた。

情操教育の一環として、また、クラスの和を図ることを目的として毎年実施されている。全学年十六クラスが練習の成果を披露した。

成績は次の通り。

学校長賞（一位）普通科一年一組

金　賞（二位）食物科一年　普通科二年三組

優良賞（三位）普通科一年二組　食物科二年　普通科三年五組

放送部　全国高校総文への出場が決まる

第十六回全国高等学校総合文化祭放送部門福島県大会オーディオピクチャー部門「おだがいさま交番～絆の架け橋～」で放送部が最優秀に選ばれた。来年、富山県で開催される第三十六回全国総合文化祭富山大会放送部門の出場が決まった。

高校総合文化祭　朗読部門

神場明透佳さん（二年）が佳作に入選し、東北大会の出場を決めた。

食肉惣菜創作発表会福島県大会で 附属高校食物科の三人が入賞

連合会長賞

○佐藤美也子（三年）
作品料理「鶏肉のロール寿司」

○国分　萌（一年）
作品料理「豚クレープ」

○室井里奈（一年）
作品料理「豚ヒレのゴマ衣揚げ」

県「明るい選挙啓発ポスター」 渡邉さんが一等に、杉山さんも二等

県選挙管理委員会による二十三年度の明るい選挙啓発ポスターコンクール高校の部で、附属高校三年の渡邉裕理佳さんが一等、二年の杉山萌さんが二等に選ばれた。

今年は小中学校、高校の百三十四校、計千四十七人から出品された。

二人の作品は中央審査に出品された。

福島県審査で1等に選ばれた渡邉裕理佳さんの作品

会津若松市笹山原16遺跡の発掘調査

平成二十三年の文化学科笹山原16遺跡の実習発掘は、例年より一カ月遅れて六月十一日から二十一日にかけて実施された。

本年の調査は前年の調査区の北側に約百㎡の発掘区を設定し、例年同様調査を行った。今年の調査区からは平安時代の遺物はほとんど出土せず、2b層に至って縄文時代の土器石器が大量に出土した。縄文時代前期の遺物包含層の下から、集石遺構を検出した。集石の下には土坑が確認され、集石墓であることが明らかとなった。これまで、縄文前期初頭の竪穴住居や土坑を確認していたが、新たな墓域が確認されたことで、約六〇〇〇年前に猪苗代湖畔で縄文人の定住集落が営まれていたことが確実になった。墓域の重要性を鑑み、保存区として残すことにした。

さらに下層の4ab層からは約二千点の後期旧石器時代前半期の石器が出土した。これまでの調査で最大の出土量である。地元産と推定される白色の凝灰質頁岩を材料にし、石器製作を行った痕跡である。石器分布はさらに北側に広がることが確実視されている。来年の調査が楽しみである。

全国大会にあと一歩 タッチフットボール東日本大会

東日本大学女子タッチフットボール秋季大会の予選リーグで本学KGCリベルターズは三勝一敗で六チーム中三位だった。（二位までが全国大会出場）

この大会で大学食物栄養学科四年の嶋脇千晶さんが東日本オールスター選抜選手として表彰された。

また、東日本代表戦決定トーナメント準決勝では東北芸術工科大学を67－0で破り、慶応義塾大学との決勝戦に臨んだが25－27の二点差で敗れ、全国大会への出場はならなかった。この試合では最大八点をリードされながら、二度逆転するなど、古豪慶応義塾大学と互角に渡り合い、今シーズン最高の試合だった。来年の活躍が期待される。

新任教員のご紹介（十月一日付）

講師　山口（やまぐち）猛（たけし）

埼玉県出身。日本大学大学院工学研究科情報工業専攻修士課程修了。前㈱エフコム社員。所属＝短大・家政科福祉情報専攻。

先輩を訪ねて

遠藤 由美子 さん

●昭和43年度短期大学部生活芸術科卒業
●奥会津書房代表兼編集長 福島県教育委員会委員長

卒業後、首都圏でフリーライターとして活躍後、Uターンし昭和村でからむし織のプロジェクトに関わった遠藤さん。昭和村の人々の暮らしや奥会津の文化に触れ、その精神性を次の世代に伝えたいと、有志による出版グループ「奥会津書房」を立ち上げました。

「本を作る上での地域の方々との一つひとつの深い出会いが、何よりの財産となりました。さらに志を同じくする仲間たちと深い連帯感を得られたことが大きな喜びです」。しかし、三・一一以降は自主企画の出版を休止しています。「支援活動と、これまで出版物を通じて伝えてきた地域のありようや生き方を自らも実践しながら、自主企画の出版物が出せる日を、ゆっくりと待ちます」。

遠藤さんはまた、平成二十三年から福島県教育委員会委員長も務めておられます。「非常時の教育現場に今最も必要なことは何かを問いながら、子どもたちの未来を大切に丁寧に支えてまいりたいと願っています」と、抱負を語ってくださいました。

「学生時代に、本物の芸術や文化に触れさせていただいた記憶は鮮明に残っています。在学生の皆さんも、大切な時間をいとおしみながら、わくわくと心燃え立たせてお過ごしくださることを祈っています」。

学園創立六十五周年記念　第百七十四回芸術鑑賞講座

「追悼　彫刻家 佐藤忠良」展

学園創立六十五周年記念、第百七十四回芸術鑑賞講座「追悼　彫刻家　佐藤忠良」展が九月二十七日から十月二日までの六日間、建学記念講堂ギャラリーで開催された。

現代日本における具象彫刻の第一人者であった佐藤忠良氏は宮城県大和町出身。六歳で父が死去したため、幼少期は母の実家である北海道夕張で過ごす。東京美術学校（東京芸大）卒。今年三月三十日、九十八歳で亡くなった。

今回の展示会には初期の「母の顔」や「オリエ」から晩年の「ＣＨＩＫＯ」や「帽子の像」などの、ブロンズや木彫の作品など三十一点が展示された。

二十七日には学生ら約五十人が出席して開場式が行われ、明珍賢司家族会長、山田幸二副学長があいさつし、学生、生徒、幼稚園児と一緒にテープカットをした。会場には市民らも訪れ、熱心に作品に見入っていた。

テープカットで開場式を祝う

賑わった「追悼　彫刻家　佐藤忠良」展

平成二十三年度

短大音楽科・定期演奏会

短大・音楽科による第四十二回定期演奏会が十月二十九日、建学記念講堂で開催された。

音楽科内のオーディションを通過した八人がピアノやクラリネット、フルートを演奏、声楽も披露された。音楽科全員による宗教曲の合唱や、附属高校生も加わった大編成の郡山開成学園オーケストラがベートーヴェンの「エグモント序曲」などを演奏した。会場には卒業生や保護者などが詰めかけ、惜しみない拍手を送っていた。

オープニングでの合唱

学園創立六十五周年記念　第百七十五回芸術鑑賞講座

「フランツ・リスト室内管弦楽団」演奏会

学園創立六十五周年記念、第百七十五回芸術鑑賞講座「フランツ・リスト室内管弦楽団」演奏会が十一月十七日、建学記念講堂で行われた。

フランツ・リスト室内管弦楽団は、ハンガリーが生んだ偉大なる作曲家フランツ・リストに敬意を表してその名を冠し、ハンガリー音楽の神髄を伝えるべく、一九六三年に名門のフランツ・リスト音楽院の同窓生によって創設され、基本的に指揮者を置かず、ローラのリーダシップにより演奏を行う。高いアンサンブルの精度を誇っており十二回目の来日。

今回はリスト生誕二〇〇年を記念して団員十六名がハンガリー狂詩曲など特別プログラム九曲を披露。一流の演奏に魅了された学生からのアンコールの拍手がホールをおおい、「浜辺の歌」が演奏された。

赤い羽根募金で二〇二、七一五円の善意

大学・短大学友会と附属高校生徒会は、助け合い運動の一環として学内で募金活動を行い、二〇二、七一五円の浄財を得た。十一月十四日、大学学友会会長の吉川梨奈さん、厚生部長の鈴木咲さんと附属高校生徒会会長の北池智美さんの三人が県共同募金会郡山支会へ委託した。

浄財を届けた（右から）大学学友会会長・吉川梨奈さん、厚生部長・鈴木咲さん、高校生徒会会長・北池智美さん

附属高校の制服 二十四年度から新しく

平成二十四年度の入学生から附属高校の制服が新しくなる。

夏の制服は、薄いブルーボタンダウンブラウス（ＫＧＣマーク入り）、ボックスプリーツグレー地ピンクブルー黒ライン入り、ベージュベスト（ＫＧＣマーク入り）。一層清楚で機能的なデザインになる。

冬の制服は、紺チェックワンピース、濃紺カーデガン（エンブレム付）、厳寒時は濃紺ショートダッフルコート。

冬服

夏服

本学所蔵　紙上美術展66

「自然の一シーン」

（せせらぎこみち・春～初夏）

郡山女子大学教授　武井 玲子

光によって変化する四季折々の花や樹木の色のグラデーションに魅せられて、写真を撮り続けているのが人間生活学科の武井先生。寄贈された作品は創学館二階のホワイエに展示されている。

武井先生は、「最近のカメラは性能が良くなり、衰えた肉眼よりも新たな発見があって、名誉学長の『自然を凝視（みつ）めて、師としよう』のお言葉を実感しています。自然と共生するためには、自然の営みの偉大さやすばらしさを感じ、そうすることで自然を大切にという気持ちになることがまず第一歩であり、写真は、この意味からも有効です」と語った。

木もれ陽

英国の詩人T・S・エリオットの文芸批評の中に「芸術と科学の接近」を論ずるところがある。細いフィラメントにしたプラチナを酸素と二酸化硫黄の入ったボックスに入れてみた時の化学反応と「芸術」とを重ね合わせて論じている。

二つのガスをプラチナのフィラメントのあるところで混合させると、全く新しい亜硫酸が生まれる。この化合が起こるのはプラチナの場合に限るのだが、その新しくできた亜硫酸は、何らプラチナの痕跡をとどめず、またプラチナ自身も何らの影響を受けた形跡がなく、もとのままでいる。

芸術家（詩人）の精神は、このプラチナの細片に他ならない。二つの元素は感情と感性であり、芸術家の下でこれらが混合して生まれるもの、それが芸術作品である。その作品は生みの親の痕跡を全くとどめず自立し、また生みの親も子から何らの影響を受けず屹然として、もとのまま孤高を保っている。このような論旨である。

「芸術的精神」とは、「科学」の如くかくも冷徹なるものなのか。原発が人類に突き付けている課題に「科学」のみならずこの「精神」で立ち向かわねばならないと考える。（均）